

競艇挑戦 究める心

第1部 異能を輩出 ①

進路 広がる分野

モーターボートレース されるのか。準学士(高専)で一風変わった選手がこ 専卒の称号)ボートレーサーの勝算やいかに。選手(23)。阿南工業高専 競艇場は1周600 等専門学校(徳島県阿南 6艇で競い、時計と市)を卒業し、競艇の世 反対回り(左回り)に3 界に飛び込んだ。建築を 周して順位を決める。 修めた栗田さんがなぜ、 ボートは時速約80 陸を離れて海の世界を選 び、体感速度約120 なんだのか。高専で学んだ びで、約1分50秒で勝負 腕前は新たな世界でいか は決する。ターンの横G 稼ぐことも夢ではない。



今年デビューした栗田選手。エンジンやプロペラを整備する

意外な分野で活躍する高専出身者(中退含む)

	名前	分野	出身高専
スポーツ	鈴木 夕湖	カーリング (平昌五輪銅メダル)	旭川高専
	衛藤 昂	走り高跳び(リオ五輪出場)	鈴鹿高専
	菅本 信哉	野球(東大野球部)	香川高専
ゲーム・ソフト	田尻 智	ゲームクリエイター (ポケモンの生みの親)	東京高専
	斉藤 秀夫	ソフトウェア開発者 (秀丸エディタなど開発)	福井高専
文化・芸能	北村 一輝	俳優	弓削商船
	国村 隼	俳優	大阪府立大学高専
	安部龍太郎	小説家(「等伯」で直木賞受賞)	久留米高専
	N S P	フォークバンド(「夕暮れ時はさびしろう」がヒット)	一関高専
政治	佐々木りえ	大阪市議会議員(グラビアアイドルから政界へ)	松江高専

栗田さんの両親は中学教師で、競艇とは無縁だった。高専4年生の時にインターンシップで世話になった建設会社の従業員に掛けられた言葉が、人生を変えるきっかけとなった。「いろいろな世帯を見ることがいいよ」高専は専門を深く学ぶ。インターンシップだけでなく課外授業でも実社会との接点はあるが、選択肢のひとつではない

整備や調整 似通う感覚

という当たり前のことに改めて気づいた。そして4年生の夏休み。栗田さんはたまたま

知人に誘われて競艇を見に行き、衝撃を受ける。「ターンの迫力、エンジンの音とガソリンの匂い。こんな格好いいものを生まれて初めて見ました」。競艇について調べれば調べるほど「自分の求めていたモノに近い」と思うようになる。実力が左右する勝負の世界にも引き付けられた。高専退学も決意したが周囲に説得され、いったん休学して養成所の試験に挑むことにした。試験は2回。毎回1500人前後が受験し、合格者は僅か約50人。元甲子園球児など全国レベルのアスリートも狭き門をこぎ抜けようとする。栗田さんは4回目の受験で滑り込むことができた。高専を卒業して養成所へ。1年間の経過したとき、約50人いた同期は26人になっていた。レースで使用するボートやエンジンは個人の所蔵ではない。各競艇場に用意されていて、開催初日の前日に抽選で各選手に割り当てられる。そこから各選手の腕の見せどころだ。満潮干潮などによる潮の流れ、海水温、水圧などいろいろの要素が絡み合い、スピードの出方が変わる。新人の栗田さんにもその感覚は肌で分かる。選手はレース環境を分析しながら、エンジンの整備とプロペラの微調整を行う。競艇場の整備室にはいろいろな工具があり、「ガソリンや油の匂いが漂って高専の教室に似ている」(栗田さん)。「流体力学や水理学は何も産業界だけに限らない。スポーツから文化芸能まで幅広い分野に進出しているが、高専独自の教育環境によるところも大きいようだ。高専は少人数教育で教授陣の目も行き届きやすい。教授は学生の自主性を重んじながらも、5年の在学期間を通じ、将来の相談に親身に乗る。良き教育者が良き高専生を輩出する風土の中で、高専生は自身のキャリアを模索し、それぞれの能力を引き出している。(編集委員 田中陽)

今年3月に開かれたボートレーサー養成所の「修了記念競走」。選手紹介のパンフレットに、栗田さんの教官はこんなコメントを寄せた。「研 究熱心であった。まじめ 握手をしたら右手の人さし指の手のひらのひらに小豆大ほどのマメがあるのが分かった。「右手でハンドルを操縦するの で」と笑顔に。マメの硬 さが勝利をたぐり寄せる に違いない。目指すは競艇界の頂点だ。高専出身者の活躍の場 立ちどころか」 「流体力学や水理学は 高専は少人数教育で教授陣の目も行き届きやすい。教授は学生の自主性を重んじながらも、5年の在学期間を通じ、将来の相談に親身に乗る。良き教育者が良き高専生を輩出する風土の中で、高専生は自身のキャリアを模索し、それぞれの能力を引き出している。(編集委員 田中陽)